

第1鍵盤 Hauptwerk (C-a^m)

Bordun	16'
Principal	8'
Rohrflöte	8'
Gamba	8'
Octava	4'
Spitzflöte	4'
Quinta	3'
Octava	2'
Mixtur 4f.	1 1/3'
Cornet 3f.	
Vox Humana	8'
Trompete	8'

Tremulant

第2鍵盤 Oberwerk (C-a^m)

Gedackt	8'
Quintadena	8'
Rohrflöte	4'
Nasard	3'
Octava	2'
Quinta	1 1/2'
Tertia	1 3/5'
Sifflöte	1'
Krummhorn	8'

Tremulant

第3鍵盤 Schwellwerk (C-a^m)

Bourdon	8'
Gambe	8'
Voix Céleste	8'
Flûte Octaviante	4'
Flageolet	2'
Basson-Hautbois	8'

Tremulant

足鍵盤 Pedal (C-g')

Principal	16'
Subbass	16'
Octavbass	8'
Octave	4'
Posaune	16'
Trompete	8'

カプラー II/I, III/I, III/II, I/P, II/P, III/P

ストップ数 33個

アクション メカニカルキーアクション
メカニカルストップアクション

コンビネーション 4000通り

パイプ総本数 2005本

ケース 楓、ワックス仕上げ

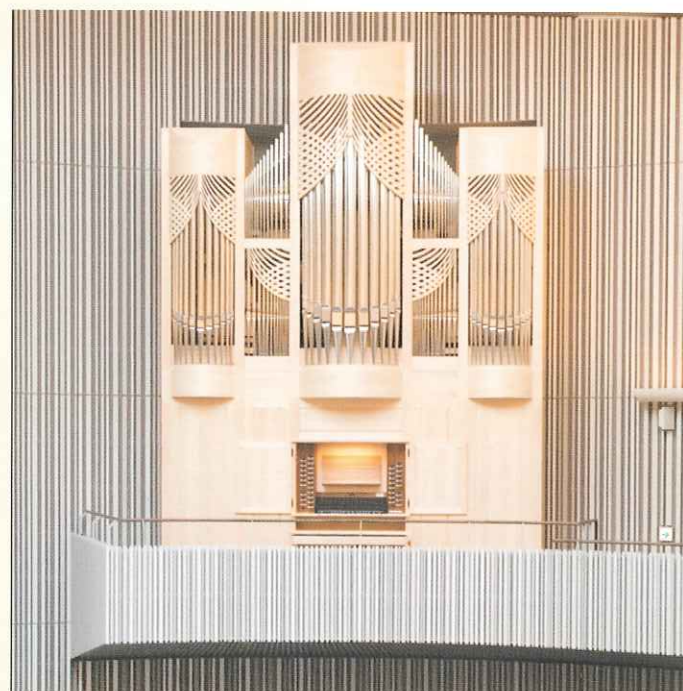
調律法 Neidhardt "Große Stadt"

設計・製作・組立 オルゲルパウ・フェルスベルク社(スイス)
社長 リヒャルト・フライターク

ディスポジション ジャン=マリ・トリコト、フォルカー・ルッツ、
植木紀夫

調整・整音 ジャン=マリ・トリコト

設置・奉献 2008年3月



このオルガンは、18世紀に中部ドイツで活躍したオルガン建造家、ゴットフリート・ジルバーマン (Gottfried Silbermann, 1683-1753)の理念に着想を得、建造されました。第1、第2鍵盤と足鍵盤はG.ジルバーマンのパイプ設計を踏襲しており、ドイツ・バロックのスタイルを基本コンセプトとしています。

それに対し第3鍵盤のパイプ陣は、フランス・ロマン派系の音色です。G.ジルバーマンはそのオルガン建造法において、フランスの手法に強い影響を受けました。したがって、このオルガンではドイツ・バロックの音色とフランス風の音色が見事に融合しています。

オルガンケースの木材は楓です。堅く丈夫で、かつ明るい色彩をもつこの木材は、チャペル内の聖壇や椅子の木材と調和します。オルガン前面にはプリンシパル管がシンメトリー配列で並んでいます。外観やストップノブ等もG.ジルバーマンのオルガンを意識したデザインになっています。

桜美林大学 荊冠堂献堂式・オルガン奉献式

オルガン奉献コンサート

2008年3月29日(土)

10:30~12:30

桜美林大学 荊冠堂チャペル

